

『ザ・ゴール』－企業の究極の目的は何か－

エリヤフ・ゴールドラット／著

ダイヤモンド社 2001年 5月発行

2階ジョブコーナー図書 (請求記号: 509.6/本館/ジョブ)

ボトルネック(=制約条件)にこそ、改善努力を集中すべき!工場全体のアウトプットはボトルネックのアウトプット以上にはならない。それを無視して、いくら個別工程の生産性を上げてても無駄。

TOCは、最小の労力で最大の効果(利益を上げられるようになる)があがる全体最適化の改善手法であり、本書はそれを小説仕立てのストーリーでたどりながら学べるテキストである。

「日本人には知られたくない」との著者の意向で、日本ではなかなか出版されなかった、いわくつきの一冊。続刊に『ザ・ゴール2』『チェンジ・ザ・ルール』『クリティカル・チェーン』がある。(県立図書館に全て所蔵しています)

『戦略の本質』－戦史に学ぶ逆転のリーダーシップ－

野中郁次郎・戸部良一・鎌田伸一・寺本義也・杉之尾宜生・村井友秀／著

日本経済新聞社 2005年 8月発行

2階一般開架図書 (請求記号: 391.3/本館/一般)

『失敗の本質』－日本軍の組織論的研究－(県立図書館に所蔵)の執筆陣が、それを執筆する時に生じた問題意識を20年もの歳月をかけて形にしたリーダーシップ論である。

数ある戦史の中から6例を取り上げ、それぞれの戦いにおけるリーダーの言動から、「戦略の本質」が最も顕在化すると考えられる「逆転勝利」を勝ち取ったリーダーには何が備わっていたかを明らかにしている。

本書を執筆するプロジェクトで議論されたのは、「日本のリーダーには徹底的にリアリズムが欠落していると同時に、理想主義も貧困である」ということ。

これは、日本が「リーダー不在」の国であることを意味するのか、そんなことはないのか!? 『失敗の本質』と併せて読まれることをお薦めする。

「高知県の歴史散歩」

高知県高等学校教育研究会歴史部会／編
山川出版社 2006年 8月発行
2階郷土（請求記号：k290.9/80）

一昨年の山内一豊夫妻を主人公とする「功名が辻」に続き、再来年（2010年）のNHK大河ドラマは、再び高知県が重要な舞台となる「龍馬伝」に決定しました。また、最近は戦国武将への関心が高まり、若い女性を中心に長宗我部元親が全国的にも人気のようです。土佐の歴史が注目され、新たな「ブーム」が予感される昨今、県下をめぐる、史跡を訪ね、過去の人物に思いを馳せるのに恰好の一冊がこの「高知県の歴史散歩」です。

本書は、県下の高等学校地理歴史科担当教員により代々執筆、編集されてきた「史跡巡り」のためのガイドブックで、2年前に全面改定され、新たにワイド版として出版されたものです。県下を高知市、県中部（高知市を除く仁淀川以東、物部川以西の地域）、県東部（物部川以東の地域）、県西部（仁淀川以西の地域）の4区域に分け、豊富な写真や地図とともに、史跡の説明、見学のポイント、交通手段等々が詳しく記されています。また、随所にちりばめられた40数本のコラムには土佐の歴史や文化、人物、食などに関する豆知識がいっぱい詰まっています。さらに、付録として見学のモデルコースや文化財公開施設なども掲載されており、まさに、土佐の歴史に触れるための最適の入門書です。さあ、あなたも、本書を片手に高知県の「歴史散歩」をはじめてみませんか。